

## みのやき 美濃焼 Q & A

Q：美濃焼はいつ頃から始まったの？

A：土岐市にはじめてやきものを焼く窯が作られたのは、7世紀（今から1400年ほど前）です。須恵器というねずみ色をしたやきものを焼いた窯が2ヶ所確認されています。

Q：陶器と磁器ってどう違うの？

A：「陶器」の原料は粘土で、「磁器」の主な原料は陶石。光を透さず少し水を吸うのが陶器で、光を透して水を吸わないのが磁器です。磁器は陶器より硬く、叩くと金属的な音がします。

Q：美濃焼にはどんな種類があるの？

A：陶器の種類は釉薬（うわぐすり）の違いによって色々な種類にわかれます。



黄瀬戸

**黄瀬戸** 黄色いやきものです。植物を燃やした灰を釉薬にしています。装飾方法は、胆礬という緑色に鉄彩という茶色を加えます。さらに印刻（スタンプ）や線刻（ヘラ）で文様をつけます。



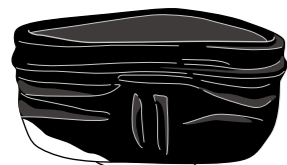
瀬戸黒

**瀬戸黒** 黒いやきもので、作られているのは茶碗のみです。この黒色は窯の焼成中に、窯から茶碗を取り出した後、常温まで急速に冷やすことで生まれます。



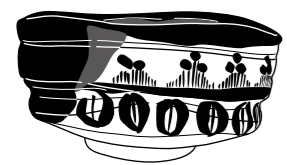
志野

**志野** 長石という鉱物を釉薬の原料とした白いやきものです。やきものに初めて絵文様を描くことができるようになりました。志野には、茶碗のほか茶の湯で使う道具や、食器類があります。



織部黒

**織部** 今から400年ほど前（江戸時代の初め）に、土岐市泉町久尻にある元屋敷窯で焼かれました。その当時の武将「古田織部」という人が好んだやきものということから織部という名前がついています。織部焼はそれまでのやきものにはなかったような形や文様を描かれ、当時の京都や大阪ではとても人気がありました。たとえば、丸い形をした焼き物を三角や四角にゆがんだ形にしてみたり、日本にはなかった十字架や南蛮人（ヨーロッパの人を当時はこう呼んでいました）を描くなど、とてもモダンなやきものでした。織部のモダンで芸術的なところが現在も注目されている理由です。



黒織部

## みのやき 美濃焼 Q & A

Q：美濃焼はいつ頃から始まったの？

A：土岐市にはじめてやきものを焼く窯が作られたのは、7世紀（今から1400年ほど前）です。須恵器というねずみ色をしたやきものを焼いた窯が2ヶ所確認されています。

Q：陶器と磁器ってどう違うの？

A：「陶器」の原料は粘土で、「磁器」の主な原料は陶石。光を透さず少し水を吸うのが陶器で、光を透して水を吸わないのが磁器です。磁器は陶器より硬く、叩くと金属的な音がします。

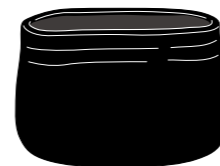
Q：美濃焼にはどんな種類があるの？

A：陶器の種類は釉薬（うわぐすり）の違いによって色々な種類にわかれます。



黄瀬戸

**黄瀬戸** 黄色いやきものです。植物を燃やした灰を釉薬にしています。装飾方法は、胆礬という緑色に鉄彩という茶色を加えます。さらに印刻（スタンプ）や線刻（ヘラ）で文様をつけます。



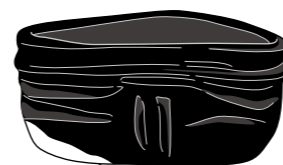
瀬戸黒

**瀬戸黒** 黒いやきもので、作られているのは茶碗のみです。この黒色は窯の焼成中に、窯から茶碗を取り出した後、常温まで急速に冷やすことで生まれます。



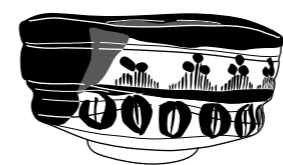
志野

**志野** 長石という鉱物を釉薬の原料とした白いやきものです。やきものに初めて絵文様を描くことができるようになりました。志野には、茶碗のほか茶の湯で使う道具や、食器類があります。



織部黒

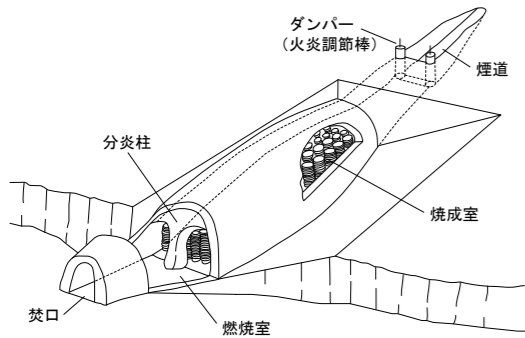
**織部** 今から400年ほど前（江戸時代の初め）に、土岐市泉町久尻にある元屋敷窯で焼かれました。その当時の武将「古田織部」という人が好んだやきものということから織部という名前がついています。織部焼はそれまでのやきものにはなかったような形や文様を描かれ、当時の京都や大阪ではとても人気がありました。たとえば、丸い形をした焼き物を三角や四角にゆがんだ形にしてみたり、日本にはなかった十字架や南蛮人（ヨーロッパの人を当時はこう呼んでいました）を描くなど、とてもモダンなやきものでした。織部のモダンで芸術的なところが現在も注目されている理由です。



黒織部

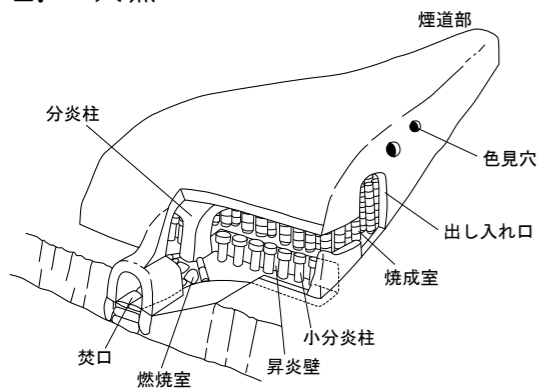
## かま 窯のうつりかわり

### 1. あながま 窖窯



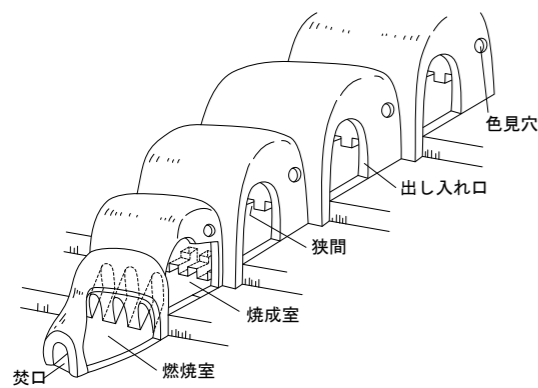
と き し は し か ま せ い き  
土岐市に初めて窯が作られたのは、7世紀  
です。窯を作る技術は5世紀ごろ、朝鮮半島  
から日本へ伝わり、やがて美濃にも伝わりま  
した。それは、山の斜面に沿ってトンネルの  
ように掘って作られた窯で窖窯といひます。  
おおがま どうじょう むろまちしだいごころ やく  
大窯が登場する室町時代頃まで約1000  
年間、このタイプの窯が使われていました。

### 2. おおがま 大窯



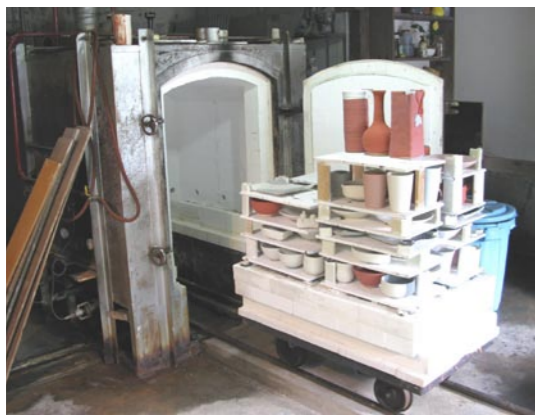
てんじょう ささ はしら あながま かいりょう  
天井を支える柱を作るなど、窖窯に改良を  
加えて作られたのが大窯です。柱があるので  
天井を高くしたり、床を広くしたりして窯全  
体を大きくしても、窯が崩れる心配がなくな  
り、多量のやきものを焼くことができるよう  
になりました。大窯はトンネルではなく、地  
上に天井を作りました。

### 3. れんぼうしきのほりがま 連房式登窯



え と し だ い きゅうしゅう からつ れんぼうしき  
江戸時代になると、九州の唐津から連房式  
登窯が伝わりました。美濃で最初に作られた  
のが「元屋敷窯」です。連房式登窯では窯の  
下側（焚口）からと、側面からも薪を入れて  
も燃やすことができるようになりました。製品  
に近いところで燃やすため、以前より短時間  
かつ高温での焼成が可能になりました。

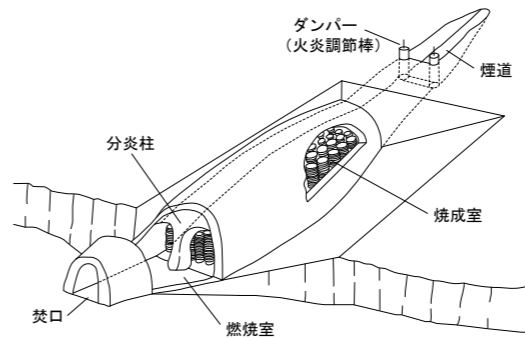
### 4. せきたん じゅうゆ てんきがま 石炭・重油・ガス・電気窯



れんぼうしきのほりがま ねんりょう たきぎ しょうわ  
連房式登窯までは燃料は薪でしたが、昭和  
に入ると薪にかわって石炭が使われるよう  
になります。昭和25年以降、日本の産業の近  
代化が進むと燃料も石炭から重油へと変化  
し、その後さらに、ガス、電気へと移り変わっ  
ていきました。

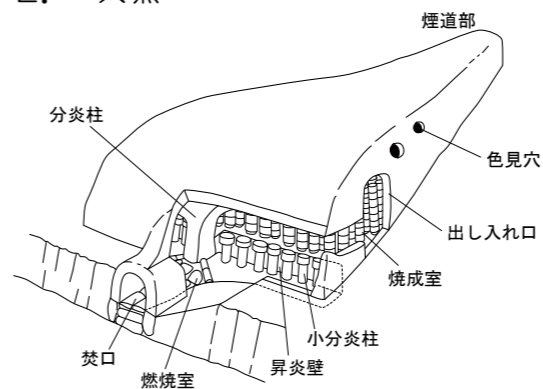
## かま 窯のうつりかわり

### 1. あながま 窖窯



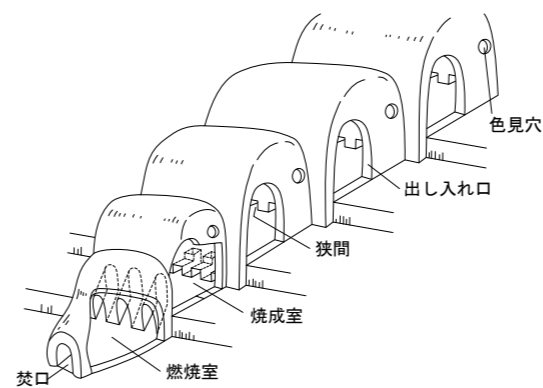
と き し は し か ま せ い き  
土岐市に初めて窯が作られたのは、7世紀  
です。窯を作る技術は5世紀ごろ、朝鮮半島  
から日本へ伝わり、やがて美濃にも伝わりま  
した。それは、山の斜面に沿ってトンネルの  
ように掘って作られた窯で窖窯といひます。  
おおがま どうじょう むろまちしだいごころ やく  
大窯が登場する室町時代頃まで約1000  
年間、このタイプの窯が使われていました。

### 2. おおがま 大窯



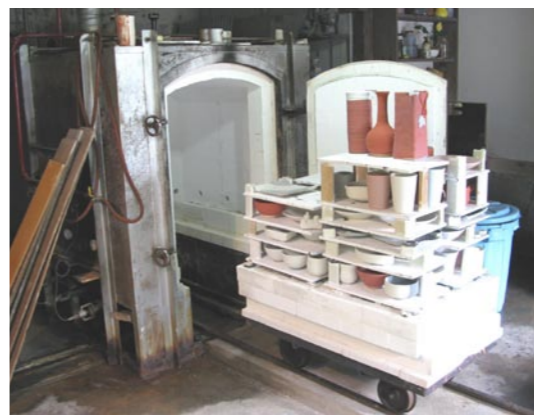
てんじょう ささ はしら あながま かいりょう  
天井を支える柱を作るなど、窖窯に改良を  
加えて作られたのが大窯です。柱があるので  
天井を高くしたり、床を広くしたりして窯全  
体を大きくしても、窯が崩れる心配がなくな  
り、多量のやきものを焼くことができるよう  
になりました。大窯はトンネルではなく、地  
上に天井を作りました。

### 3. れんぼうしきのほりがま 連房式登窯



え と し だ い きゅうしゅう からつ れんぼうしき  
江戸時代になると、九州の唐津から連房式  
登窯が伝わりました。美濃で最初に作られた  
のが「元屋敷窯」です。連房式登窯では窯の  
下側（焚口）からと、側面からも薪を入れて  
も燃やすことができるようになりました。製品  
に近いところで燃やすため、以前より短時間  
かつ高温での焼成が可能になりました。

### 4. せきたん じゅうゆ てんきがま 石炭・重油・ガス・電気窯



れんぼうしきのほりがま ねんりょう たきぎ しょうわ  
連房式登窯までは燃料は薪でしたが、昭和  
に入ると薪にかわって石炭が使われるよう  
になります。昭和25年以降、日本の産業の近  
代化が進むと燃料も石炭から重油へと変化  
し、その後さらに、ガス、電気へと移り変わっ  
ていきました。